

第1学年 生活科学習指導案

1 単元名 「がっこう だいすき」

2 単元について

(1) 児童の実態

入学当初の児童は、幼稚園や保育園との環境や行動の違いに不安や緊張で戸惑う姿が見られた。クラス内にも知らない子が多く、ほとんど会話をしないような児童もいた。しかし約2カ月がたち、学校生活に徐々に慣れ、給食や掃除の仕方も覚え始め、はりきって活動をしている。クラスの友達の名前も覚え、おしゃべりをしたり一緒に遊んだりして関わりを少しずつ広げてきている。また本校では、特別活動で6年生と「仲よし学級」を組み、お兄さんお姉さんと一緒に交流する時間を設けている。4月の間、6年生には掃除のお手伝いもしてもらっていたので、上級生に親しみをもち始めている。2年生との「なかよしペア」と学校探検も行った。学校の中のいろいろな場所や人を紹介してもらい、「もう一度行ってみたいな。」「校長先生とお話したよ。」と2回目の探検への意欲を高めてきている。

下校ではコースごとにグループを組み、保護者の協力を得ながら帰っているが、自分たちで安全に下校しようとする意識はまだ高まっているとはいえない状況である。

(2) 単元の構想

本単元は、学習指導要領の内容（1）

学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心をもち、安全な登下校ができるようにする。

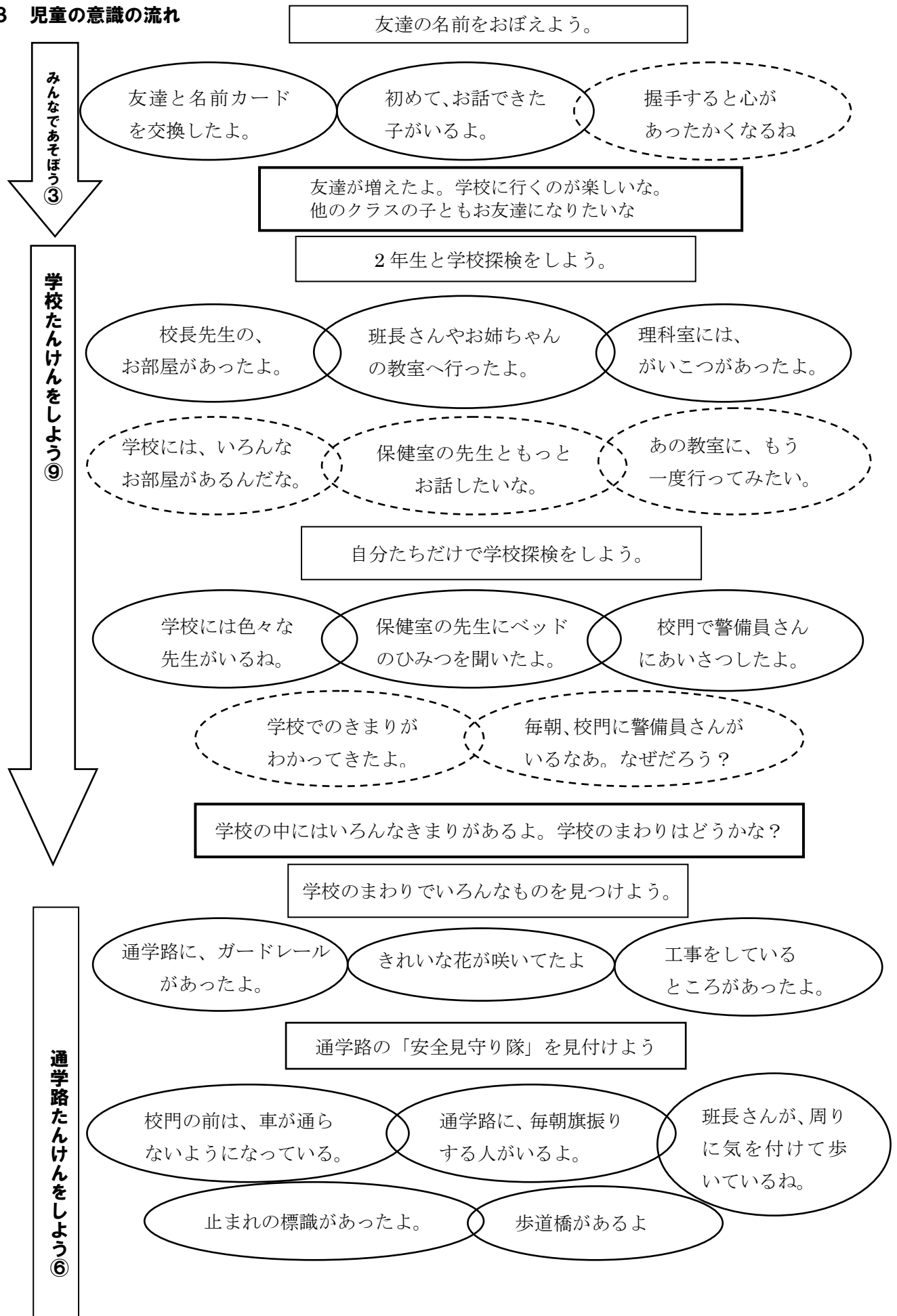
に基づいて設定した。

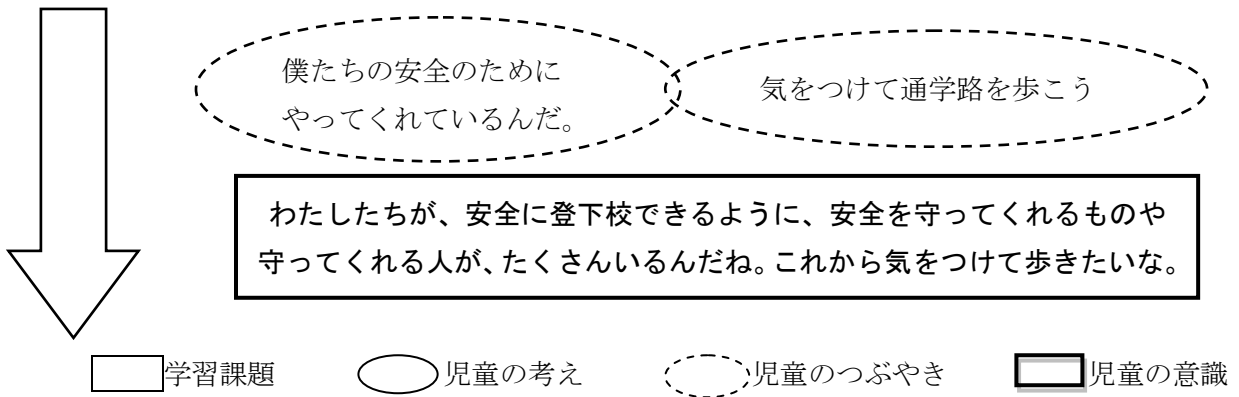
本単元は、人、自然、地域とかかわる3つの小単元から構成されている。友達、上級生、学校で働く人々とかかわりを深めたり、学校の施設を利用したりしながら、学校での生活を豊かに広げていくことができるようになることを目指している。また、通学路の様子に関心をもって歩いたり、調べたり、観察したりしながら、動植物や自然、出会う人々、安全を守る施設や人々に気付いたりするとともに、安全な登下校ができるようにすることも目指している。

小単元「通学路たんけんをしよう」では、いつも歩いている通学路で見つけたものを教え合う中から、自分たちを守ってくれているものや人に目を向け、理由を考えていく。そして、それらのものに込められた思いや人々の願いに気付かせていきたい。

活動を繰り返し行いながら新たなめあてをもち、学校の施設や人々とかかわることは、学校生活における生活の基盤を作り、好ましい人間関係を構築する上で、大切な学習であると考え。この活動を通して学校の施設や人が大好きとなり、楽しく安心した学校生活を送れるようにしていきたい。

3 児童の意識の流れ





4 研究の視点

研究主題

自分の考えをもち、共に学び合う子どもの育成
身近な「ひと・もの・こと」とかかわり合いながら、自己の生き方を考える子をめざして

研究の視点1 対象への思いを深める単元計画の工夫

手立て① 繰り返し施設や人とかかわる場を設定する

2年生と学校探検をした後、「もう一度行ってみたいところ・話してみたい人」を出し合い、2回目の学校探検への意欲を高める。2回目の探検では、学校生活を支えている人々とのかかわりを深めていけるようにする。探検後も、休み時間に会った先生や訪ねた教室について共有できるような時間を作り、学校施設や人々へ親しみをもつことができるようにする。また学校外の通学路の様子、そこで見つけた安全を守ってくれている人や施設へも関心を広げていけるように支援する。

手立て② 単元への思いを高める導入の工夫

クラスの友達に親しみをもつために、まずクラスのみinnで名前カードを交換し合ったり校庭の遊具を使ったりして遊ぶ。また、廊下や階段の歩き方を練習する時に、「この階段の上にはどんな教室があるのかな。」「あの人は保健の先生だよ。」と自分の教室以外の場所や人にも関心をもち、「学校の中にはどんな部屋があるんだろう。」「〇〇先生の他にも先生はいるのかな。」などと、学校探検への意欲をもたせる。そして、自分が生活する学校のことを知るための見通しがもてるようにする。

研究の視点2 子どもが主体的に学ぶ指導・評価の工夫

手立て③ 思いや気づきを共有する場を設定する

学校探検や通学路探検で見付けたもの・人を絵や文でカードに表し、友達の気付いたことを情報交換できる場を設ける。そして一人一人の児童の思いや気づきを共有する時間を確保する。友達の思いや気づきを見たり聞いたりすることにより、今まで気付かなかった、学校内外の施設やそれを支えている人々の様子に気付いていけるように支援していく。

手立て④ 子どもの気づきの見取りと支援を工夫する

教師が多様な角度から子どもの思いや気付きを見取っていくことができるようにする。そのために、教師が子どもの気付きの内容や方法、心情のよさ・意味などを積極的に価値付けていく。子どもは自分の気付きのすばらしさを自覚するようになる。そして周りの子どもたちにもそのよさを伝え、次の活動への意欲になるように支援していく。

5 単元の目標

友達と一緒にあそんだり、学校の中を調べたり、そこにいる人々と交流したりして、学校の施設の様子や先生など学校生活を支えている人々がいることに気付き、楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子やその安全を守っている人々などに興味をもち、安全な登下校ができるようにする。

6 単元の評価規準

	生活科への関心・意欲・態度		活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
単元の評価規準	学校の施設の様子、学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々に興味をもち、楽しく学校生活を送るとともに、安全な登下校をしようとしている。		学校の施設の利用、学校生活を支えている人々や友達とのかかわり、安全な登下校などについて、自分なりに考えたり、工夫したり、振り返ったりして、それをすなおに表現している。	学校の施設、学校生活を支えている人々や友達、及び通学路の様子などが分かり、それらと自分とのかかわりに気付いている。
小単元の評価規準	1	①先生や友達などに関心をもってかかわろうとしている。		
	2	②思いや願いをもって、施設を利用したり遊んだりして、意欲的に生活しようとしている。	① 行きたい場所を決めて探検し、体験したことを振り返って話したり絵や文で表したりしている。	①学校にはいろいろな施設があり、たくさんの人が学校を支えてくれていることに気付いている。
	3	③通学路の様子やその安全を守っている人々に興味をもち、安全な登下校をしようとしている。	②安全な登下校の仕方について考えている。	②通学路の様子、安全を守っている施設や人々に気付いている。

(1) 目標

通学路の安全を守っている人々の願いや思いに気付き、安全な登下校の仕方について考えることができる。

(2) 評価規準

生活科への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
通学路の様子やその安全を守っている人々について、進んで話そうとしている。	安全な登下校の仕方について考えている。	通学路の様子、安全を守っている施設や人々に気付いている。

(3) 展開

児童の活動 ・ 意識	評価規準(☆) 留意点(○) 支援(◎)	準備	時間
1 通学路探検で見付けたものや人について出し合う。 ・花が咲いていたよ。 ・信号があったよ。 ・指導員さんがいたよ。	○写真やカードを使い、振り返りができるようにする。 ○安全を守るための人やものについて目を向けられるようにしていく。 ○安全にまつわるものが出ない場合は、事前に撮った写真などで確認する。 ☆通学路の様子やその安全を守っている人々について、進んで話そうとしている。 (関心・意欲・態度) 発	探検の写真 絵カード	10
2 本時の学習のめあてを知る。	つうがくろの「あんぜんみまもりたい」をみつけよう		25
3 下校コースごとに、安全のためのものや守ってくれている人について話し合う。 ・止まれの標識がある。 ・毎日警備員さんが門のところにいるよ。 ・ぼくたちが事故に合わないよう見守っているんだね。	○板書を整理しながら、自分たちの安全を守るためのものや人がたくさんあることに気付かせる。 ○安全を守るためのものや人について、同じことでも気付いたことを称賛し、安全への関心を高める。 ○「どんなものがあるのか」「どんな人がいるのか」を発表させると同時に、「なぜあるのか」「なぜ毎日同じところにいるのか」ということを考えられるよう、発問を工夫する。 ☆通学路の様子、安全を守っている施設や人々に気付いている。 (気付き) 発 観 作 ◎通学路探検をしている時の写真や指導員さんの写真を活用し、安全のものについて視覚的にわかるようにする。	学区の地図	
4 安全を守ってくれている人の思いに触れる。	○ゲストティーチャーの方と事前に打ち合わせを行い、児童の安全のためにどんな思いで活動しているか、児童にどんな願いをもっているか話してもらおう。	ゲスト ティーチャー	5
5 これからどのように通学路を歩けばよいか考える。	○「毎日安全に気をつけて歩きたい」という思いを高めるようにする。 ☆安全な登下校の仕方について考えている。 (思考・表現) 発 ◎ゲストティーチャーの方が語ってくれた思いを振り返り、どのように歩けば安全なのかを考えさせる。		5

(1) 目標

通学路の安全を守っている人々の願いや思いに気付き、安全な登下校の仕方について考えることができる。

(2) 評価規準

生活科への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
通学路の様子やその安全を守っている人々について、進んで話そうとしている。	安全な登下校の仕方について考えている。	通学路の様子、安全を守っている施設や人々に気付いている。

(3) 展開

児童の活動 ・ 意識	評価規準(☆) 留意点(○) 支援(◎)	準備	時間
1 通学路探検で見付けたものや人について出し合う。 ・花が咲いていたよ。 ・信号があったよ。 ・指導員さんがいたよ。	○写真やカードを使い、振り返りができるようにする。 ○安全を守るための人やものについて目を向けられるようにしていく。 ○安全にまつわるものが出ない場合は、事前に撮った写真などで確認する。 ☆通学路の様子やその安全を守っている人々について、進んで話そうとしている。 (関心・意欲・態度) 発	探検の写真 絵カード	10
2 本時の学習のめあてを知る。	つうがくろの「あんぜんみまもりたい」をみつけよう		25
3 下校コースごとに、安全のためのものや守ってくれている人について話し合う。 ・止まれの標識がある。 ・毎日警備員さんが門のところにいるよ。 ・ぼくたちが事故に合わないよう見守っているんだね。	○板書を整理しながら、自分たちの安全を守るためのものや人がたくさんあることに気付かせる。 ○安全を守るためのものや人について、同じことでも気付いたことを称賛し、安全への関心を高める。 ○「どんなものがあるのか」「どんな人がいるのか」を発表させると同時に、「なぜあるのか」「なぜ毎日同じところにいるのか」ということを考えられるよう、発問を工夫する。 ☆通学路の様子、安全を守っている施設や人々に気付いている。(気付き) 発 観 作 ◎通学路探検をしている時の写真や指導員さんの写真を活用し、安全のものについて視覚的にわかるようにする。	学区の地図	
4 安全を守ってくれている人の思いに触れる。	○ゲストティーチャーの方と事前に打ち合わせを行い、児童の安全のためにどんな思いで活動しているか、児童にどんな願いをもっているか話してもらおう。	ゲスト ティーチャー	5
5 これからどのように通学路を歩けばよいか考える。	○「毎日安全に気をつけて歩きたい」という思いを高めるようにする。 ☆安全な登下校の仕方について考えている。 (思考・表現) 発 ◎ゲストティーチャーの方が語ってくれた思いを振り返り、どのように歩けば安全なのかを考えさせる。		5